

⑦3 令和元年8月豪雨災害における調査観測兼清掃船 「海輝」・「海煌」の流木回収活動

授賞機関 国土交通省 九州地方整備局 熊本港湾・空港整備事務所

キーワード 連携回収、早期回収、2次災害防止

全建賞審査委員会の評価ポイント

令和元年8月豪雨で、大量の流木等の漂流ゴミが有明海に流れ込んだため、熊本港湾・空港整備事務所に所属する清掃船「海輝」「海煌」を現地に集中投入し、地元関係者等とも連携して実施した回収活動。流木衝突による2次災害を防止する等の航行船舶の安全確保に大きく寄与した点が評価された。

1. はじめに

調査観測兼清掃船「海輝」^{かいき}「海煌」^{かいこう}は、熊本港湾・空港整備事務所に所属し、熊本港と八代港を基地として有明海・八代海の海上漂流ごみの回収と水質・底質等の環境調査に従事している。

令和元年8月28日からの豪雨により、河川を經由して大量の漂流物（流木、竹、萱等）が有明海北部に流出する事態となった。

有明海は全国有数の海苔養殖が盛んな海域であると同時に、福岡県及び熊本県と長崎県を結ぶフェリーや高速船が就航しているため、海苔養殖の準備に支障がでないよう、また、航行船舶の安全性を確保すべく清掃船2隻を集中投入し漂流物の回収作業に当たった。

2. 事業の概要

豪雨による有明海の漂流ごみ回収期間中は、作業時間を日の出から日没に拡大し、さらに前線の基地港を三池港に設定し、現場までの移動時間短縮を図る等、作業時間の拡大を図った。

流木等が非常に大量であった事から、回収に当たっては（一社）日本埋立浚渫協会に「支援台船」の出動を依頼し、回収を行う「海輝」「海煌」の支援（回収した流木などの一時貯留）に当たらせ、漂流物の陸揚げ時間を短縮し効率化を図った。

また、沿岸で回収に当たっていた佐賀県、福岡県の自治体及び漁業者とも流木情報の共有を図ると共に、浅海域において漁業協同組合からの応援要請に基づいた「海輝」「海煌」と漁船等（170隻）の連携回収を実施した。

さらには漂流物の回収に先行して、港湾業務艇「かがしま」及びドローンを活用して広域的な海

面調査を行い、漂流物の回収場所をピンポイントで特定することにより、回収作業の効率化を図った。



海輝による漂流物回収

3. 事業の成果

8月28日から9月5日まで酷暑の中、土日含め1週間を超える長期に渡り回収作業を実施し、流木など漂流ごみ（連携回収を含め）昨年度1年間の回収量を上回る834m³（内、流木183本）を回収し、定期船の運航に支障を与えることなく流木衝突による2次災害を防止する等の航行船舶の安全確保に大きく寄与した。

また、漂流物の早期回収により、海苔養殖の準備が支障なく開始できるなど社会貢献が図られた。



（一社）日本埋立浚渫協会及び漁業者との連携回収

4. おわりに

今回の漂流物回収に当たり早期に支援台船の手配を行って頂いた（一社）日本埋立浚渫協会の皆様、連携回収に協力して頂いた各漁業協同組合の皆様がこの場をお借りして感謝すると共に、今後も引き続き、有明海・八代海の海洋汚染の防除に取り組んでいきたい。